「がんばろう 日本！国民協議会」埼玉読者会 5 月

2023年
第 6 号

自立した主権者をめざして

▶ ▶ ▶ Vol.31

KEYPOINT

- 今回の統一地方選挙を通じてあなたは何が見えましたか？

SUMMARY

選挙も終わり、あらたな 4 年間がスタートしました。あなたは自分が投票した候補者のマニフェストや政策について覚えているでしょうか。自分が何故その人に入れたのかを自分自身に説明できなければ、また次の選挙で誰に投票するかを悩むことになります。自分の生活を良くするということの意味をもう一度問い直し、どんな視点で社会を見るべきか、皆で話し合いましょう。

お 知 ら せ

「がんばろう、日本！国民協議会」の機関紙 528 号（5 月 1 日発行）1 面論文について、構成や流れや受け止め方等をコメントする場を YouTube チャンネルで配信しています。毎月配信しますのでニュースと併せてご視聴ください。

目をつぶれば誰のものか わからないマニフェスト

選挙に出る候補者たちが掲げるマニフェストやキャッチフレーズはどれも同じように聞こえます。「人にやさしい社会の実現」「命と暮らしを守る」「子育てしやすいまちをつくる」など、言葉だけ見ると自民党の候補者なのか、立憲民主主義党なのか、はたまた共産党なのか全くわかりません。選挙カーから流れるアナウンスは短いフレーズばかりであるし、チラシも紙面の大きさが決まっているため、それほど書き込むことができません。結局、他候補者との違いを明確にうちだすよりも、耳障りの良い、無難な内容に落ち着くのだろうという事情は分からないでもない気もします。しかし、私達は候補者がもつ問題意識を具体的に確認するためにマニフェストを知りたいと思っているはずです。今回の選挙で目にした違いが分からないマニフェストに対し、私達は何か行動を起こしたでしょうか。

今回の選挙で 18 歳（有権者になったばかり）のある女性が、市内各駅を回って候補者たちが配るチラシを受け取りながら、スタッフの人たちに「この候補者の政策は何か」「この候補者の人柄はどんなものか」について質問をしたそうです。彼女曰く、政策についてはほとんどのスタッフが説明することができなかったし、人柄についても事実（子供が何人とか、何の仕事をしているとか）しか聞くことができなかったそうで、持ち帰った沢山のチラシを前に、皆同じようなことが書いてあるけれど、聞いてもその違いが分からないのではどうしようもないと、その中でも人物の説明が一番わかった人に投票するしかないと思ったと話していました。彼女にとっては初めての選挙だからこそ、真面目に選挙に取り組もうとしたのでしょう、しかし、彼女の純粋な疑問は解決できなかったばかりか、ある種の失望を与えてしまうという結果になりました。

では、彼女のような「初心」を過ぎた市民は、何を基準に投票する候補者を決めるのでしょうか。例えば東京都知事選を考えてみます。小池百合子さんが最初の都知事選で掲げた 7 つの公約の達成はほぼ 0 でした。それなのに、2 回目の選挙では圧勝しています。このことだけで小池さんの都知事としての評価が決まるわけではありませんし、そういうことを言いたいのではないのですが、結局は選挙におけるパフォーマンスの上手さとマスコミへの露出度などが当選のカギとなるのだということが示されたように思えます。同時に有権者は何も見ていない、公約が達成されたかどうかなど何も考えていないという、投票する側の問題も示しているともいえるのです。どう考えても各候補者の政策を吟味した上で、最も自分の思考に近い人を選んでいるとは思えません。

選挙の争点を決めるのは誰？

今まで選挙の「争点」を設定してきたのは政治の側でした。2005 年の衆院選で小泉純一郎首相は郵政民営化法案が参院で否決されて衆院を解散し、法案に反対した候補は自民党で公認せず、対立候補を送り出すという手段に出たことをよく覚えています。まるでドラマのような展開に皆が興奮し、郵政民営化こそ今日本でいちばん考えなければならないことだと思い込んでしまった節があります。しかし、今思い返すと、本当にそれが当時の自分にとって重要だったのだと言えるでしょうか。あれは国政の話で、地方選挙ではないよ、という声も聞こえる気がしますが、地方選挙においても、同じことが起こっているのです。候補者が作り上げる争点（子育てや高齢者や施設の建設等）の中で「あったらいいな」と思うことや明るい話題が沢山書いてある人に目が奪われ、それが本当に自分の生活において重要な位置づけになるかどうかを考えずに投票してしまってはいませんか？

選挙は私たちの課題を解決するために存在します。日ごろから自分の切実な課題や問題意識をみんなと共有していると、自然と選挙の時に「そのこと」を伝えようとしている候補者に目が行くようになるでしょう。そうなれば候補者も、自分（と周囲の支持者）のみが望む「このまちの未来」ではなく、様々な人の問題意識や価値観を想定したうえでの訴えをせざるを得なくなってくるのです。

市民が課題と感じることは多岐にわたりますからそんなものをすべて入れ込むことはできない、又ひとつのテーマだけに絞って公約をつくることもできないとの反論もあるかもしれません。しかし、あくまでそれは社会の課題を「単体」で考えることから起こります。何かを解決すると、別の問題が生じるように、社会の課題は複雑なつながりや連鎖が生じています。例えば外国人の入管の問題と LGBTQ への理解の問題と、グレーゾーンの子ども達の問題は全く違うものに思えるかもしれませんが、「なぜこのことが今問題になっているのか」ということを探っていくと、現行これらの問題に対応する際に欠けている視点が見えてきます。人が生きていくということに国籍も、性自認も、障害も本来関係ないではないですか。この、「人権」の視点を持ったうえで現行の政策はどうであるのか、またこれから自分たちが生きていく地域社会ではどのようにこれらの問題を受け止めるべきなのかを争点の主軸にできるような選挙が行われる社会を強く望みます。

〈機関紙「日本再生」No.528の内容〉
2023/5/01 発行

地域自治のなかから実現していく多様性、人権の普遍性～統一地方選から見えてくる新しい光景●3-4 面/コラム/一灯照隅●5-7 面/インタビュー/日本の少子化対策はなぜ失敗したのか/山田昌弘・中央大学教授●8-12 面/インタビュー/中国の農業、農村、農民問題/厳善平・同志社大学教授

※ 機関紙「日本再生」のご購読をご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。

一緒に考えてほしいこと

・あなたが何故その候補者に投票したのか、説明ができますか？

【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所：埼玉県越谷市大里 226-1　白川ひでつぐ事務所
担当：吉田理子
ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP　埼玉読者会 note

がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義」を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。